

令和2年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3～6
5 自己点検・評価総括表	7～15
6 令和2年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート	16

はじめに

佐々町では、平成24年に第1期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

この間、小・中学校において新学習指導要領が全面実施になり、授業時数の増加や小学校における外国語活動の導入、言語活動の充実・理数教育の充実・道徳教育の充実等の改訂が行われました。その後も、国では「教育の再生」を最重要課題の一つとして掲げ「教育再生実行会議」において、「いじめ対策」「グローバル化への対応」といった具体的な事項から「教育委員会制度の在り方」等の基本的な制度改革まで幅広い検討がなされ、今後も急速な教育改革が予想されます。そのような中で、平成27年3月には新学習指導要領の一部改正が行われ「道徳」が「特別の教科 道徳」になるなどの大きな変化がありました。さらに、平成29年度中には平成32年の完全実施を目指した学習指導要領の改訂がなされました。

また、少子高齢化や国際化・グローバル化等のさらなる進展に加えて、未曾有の大災害の発生や全国的に顕在化した深刻ないじめ・体罰問題、情報モラルの問題など教育を取り巻く環境も大きく変化してきました。

本町でも、平成27年10月に「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、平成28年度に「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」が策定され、教育が「まちづくり」に果たすべき役割も示されました。

これらの動きに対応して、電子黒板の全教室配置等の教育環境の充実や、町内の3つの小・中学校による3校共同研究の充実による教職員の研修機会の確保や、「佐々っ子応援団」活動の推進による学校・家庭・地域の連携の推進等を行い多くの成果を上げてきました。

平成29年度に策定した第2期佐々町教育振興基本計画は、これらの教育を取り巻く環境の急速な変化と第一期計画の成果と課題を踏まえた上で、「21世紀を豊かに生きる地域づくりと人づくり」を目指して本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組んでいこうとするものです。

こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、令和2年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和4年2月

佐々町教育委員会

教育長 黒川 雅孝

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は令和2年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」や「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連を図りつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにすることにした。

「活動指標」と「成果指標」を明確に分けることを試みましたが、活動がそのまま成果になる施策もあり、「活動指標」と「成果指標」が類似した設定となる部分も生じました。

また、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
 - ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
 - ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
- なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。
- なお、第2期佐々町教育振興基本計画の改善のため、評価は、平成28年度実績から行います。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏名	所属等	任期
池田 浩	元長崎大学教授	令和3年4月1日～令和5年3月31日
村川 勝彦	元公立小学校校長	平成3年4月1日～令和5年3月31日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(池田委員)

1 佐々町教育委員会自己点検・評価シートについて

コロナウィルス感染症が拡大し猛威を振るう中、佐々町教育委員会が関係機関と連携を図りながら、今できること、次に向けて準備すること等を明確にされ本町教育を推進してこられたことに敬意を表したい。

本町は教育振興基本計画に基づき学校、教育関係機関と緊密に連携を図りながら着実に成果を上げておられる。厳しい環境、条件のもとにあつて各指標ともに大多数の項目が「A」評価であり、若干の課題はあるにせよ、安全を念頭に置いた佐々町教育に関わる職員、教職員、地域住民等の努力の成果であろう。また、首長との総合教育会議においても通学路の見直し等実態に則した意見交換が行われるなど関係部局と連携・協働した取組が進んでいる。次代の教育を展望するとき重要な視点であると考えます。そのさらなる推進に期待したい。

2 教育委員会自己点検・評価について

(1)学力向上

R2年度の学習成果を調査する全国学力調査及び県学力調査(ともにR3.4実施)において大方の項目で県平均を上回りコロナ禍であっても目指す学力観に基づいた学習指導が展開されたことが伺える。特に懸案であった中学校英語(成果指標No.14 達成率 82.4%)は十分ではないが着実にその成果が表れている。学習面にかかる活動指標は教育委員会、学校等指導内容ともにすべて「A」評価。成果指標もNo.11(ICTを活用して取組む児童生徒)を除きすべて「A」評価となっている。授業改善に向けた教育委員会の指導、また各学校における校内研修の工夫の跡が感じられる。GIGA スクール事業への準備も支援員等を活用し円滑に進められている。

(2)心を育む教育

成果指標の年度値のほとんどは現状値を上回る数値として示されている。特にコロナ禍の中、感染者への差別的な言動や引きこもる子供、家庭の存在が懸念されたが、道徳教育の充実やQUテストの活用等により適切な指導・支援が行われていることが伺える。コロナ禍の中にあつても、心を育む教育は着実に進められている。中学生の図書貸出冊数は目標

値に対して厳しい結果となっている。生徒の興味関心を高める指導、環境整備に工夫に力を入れるとともに中学生の生活実態に則した対応も必要ではないかと考える。

(3) 支援を要する児童生徒への対応

特別支援教育については活動指標、成果指標ともにすべて「A」評価である。インクルーシブ教育の推進、合理的配慮の提供、特別教育支援員の活用等きめ細かな対応がなされている。データはないが教職員への啓発、研修は継続的な対応が必要である。対面形式の研修に加えオンライン等を活用した研修導入も検討されてはと思う。コロナ禍の中、見えなくなった子供、家庭の存在が問題となっている。成果指標No.39「朝食を接種しない児童生徒5.6%」にも注意を払っていくことが必要ではないか。SC、SSW、心の相談員、福祉サイド等との連携も重要である。

(4) 体力向上

外での活動が制限され室内で過ごす時間が増える等、児童生徒や特に高齢者の体力維持が懸念されたが、数値として課題となるものは認められない。コロナ禍にあっても学校や関係機関等において創意工夫した活動や施設の運用がなされたようである。社会体育施設利用者数 98,410 人は達成率 84.1%とはいえ、その成果の表れである。

(7) 学校・家庭・地域との連携

佐々子応援団は特出すべき活動であると考えている。心身ともに安心して登校できる児童生徒への関わり、活動を通して得る地域住民同士のつながり等、副次的な効果もあったのではないかと。形式的ではなく組織、運営も「ゆるやか」なつながりの中で行われているとお聞きした。学校教育の支援とともに児童生徒、町民の防犯、防災等への貢献も期待される。また、学校運営協議会も厳しい中で活動が継続されている。予測することが難しい社会の変化が目の前で展開される時代となっている。次代を生きる子供たちにどのような力が求められるのか、そのために取り組むべきもの等について多くの知恵を出し合い協議を深められるよう期待したい。

(8) 社会教育

公民館等を主体とする研修会、イベント等は多少減少したとはいえ、ほぼ例年に近い参加者を得ておられる。安全面への配慮等に苦慮されものと考えているが、こうした状況は今後もしばらく続くことが予想される。オンライン等を活用することで大学等町外からの講師招聘やweb環境が整った会場での開催も考えられる。学習機会の幅を広げるためにも検討されてはどうか。

一方PTA活動は大きな影響を受けておられる。活動自体の停滞とともに会員(保護者、教員等)同士のつながりや学び合う機会が減少している。この機会に社会教育団体であるPTAの意義、役割、必要性等について改めて振り返る契機とされてはどうか。

(9) 芸術・文化、ふるさと教育

成果指標No.73文化活動発表会への参加者数0人は、致し方ないとはいえ感染症の影響を大きく受けた分野ではないか。各学校においても特に音楽に関するイベント、部活等が中止となり関係者に大きな負担となったことが想像できる。どのような条件を整えれば活動ができるのか等、次に備える準備も必要であると考えている。ふるさと学習の機会も制限され目標値に達していない。ふるさとを子供たちの心に刻むためには、地域を知ることが不可欠である。今ある地域の現状、課題これまでの地域の歩みを大人とともに学び向き合う機会を学校、家庭、地域社会が連携し設定されていくことも重要であると考えている。佐々町教育委員会

におかれては、平成 29 年 4 月より第 2 期佐々町教育振興基本計画により、本町教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととし、評価については平成 28 年度実績から行い、その改善に資するようにされている。

(村川委員)

新型コロナウイルス感染症予防対策による休校、活動の中止や開催時期の変更、参加人員や内容の制限など、その対応に多くの時間や労力を割かれる中での活動は例年以上の苦労があったと考えられる。そのような状況下でも、活動指標ならびに成果指標の多くが「A」を示している。これは、状況に甘んじることなく、様々な創意工夫・努力によって各種活動がなされたからだと考えられる。

以下、教育委員会自己点検・評価をふまえて意見を述べる。

児童・生徒一人一人の可能性を伸ばすには、学力向上は必須の課題である。令和 2 年度、佐々町では小学校は県平均を上回り、中学校はこれまで課題とされてきた英語が上昇するなどの成果を上げている。(成果指標 No6.7.15) 今後、更なる学力向上のために、児童・生徒一人一人に配付されたタブレット端末の効果的活用や、3校共同研究の推進や校内研修への積極的な外部講師の招聘などを通して授業力向上につながる研修を進めていただきたい。(成果指標 No2 活動指標 No6.21)

体験活動は、豊かな人間性・社会性を育むために効果的な活動である。感染予防対策のために多くの活動制限が加えられた中でも、活動指標・成果指標共に「A」を達成できている。(活動指標 No67.68 成果指標 No29) 今後も各種体験活動の実施に向け、保護者や地域の協力を得ながら、活動内容の更なる充実を図っていただきたい。読書活動の推進については、中学校の一人当たりの貸出冊数の状況が前年度に引き続き非常に厳しい状況である。(成果指標 No30) 具体的な対策への取組が必要であり、町立図書館等に専門的な立場からの助言・助力を求めてもよいのではないだろうか。

健やかな体を作る基盤となる食育指導に関しては、感染予防対策のために栄養職員による給食時の「食」に関する指導を中止したために、活動指標・成果指標共に「D」であった(活動指標 No84 成果指標 No38)が、「食育だより」の発行や「佐々っ子ゆめプラン」の活用により、活動指標・成果指標共に「A」を達成できている。(活動指標 No83.85 成果指標 No39) 今後も、各種啓発資料等を有効に使い、児童・生徒の食に最も関わる家庭に対する啓発活動を進めていただきたい。

信頼される学校づくりは全ての項目が「A」であり、不登校児童・生徒の割合も県平均を下回っている。(成果指標 No41) 不登校へ対応については、これまでの取組に加え、不登校になった児童・生徒と学校とのつながりを保つためのタブレットの活用や、学校以外の居場所作りとして、民生委員を中心として町施設の活用も進められている。今後も、学校における不登校の予防・対応はもとより、地域の人的資源や施設・設備等の物的資源の活用を進め、不登校児童・生徒へのより細やかな支援を進めていただきたい。

教育環境の整備については、施設・設備等の整備のみならず、「佐々っ子応援団」等の人的資源の活用が十分になされており、全ての項目が「A」であった。また、学校・家庭・地域の連携の推進についても、感染予防対策のために、放課後子ども教室の大部分が開催できなかった(成果指標 No56)など厳しい状況下でも、「佐々っ子応援団」を中心とした学校支援ボランティアの成果指標が「A」であった。(成果指標 No58.59) 学校教育に対する地域・保護者の熱い思いの表れであり、地域・保護者と良好な関係性を構築してきた学校・行政の日々の取組を高く評価したい。

生涯学習・社会教育の推進、生涯スポーツの推進については、感染予防のために実施できな

かった活動が多くあった。(活動指標 No120 成果指標 No69)また、芸術文化を守り・育てる活動と新たな地域文化創造の推進についても、感染予防のために活動が制限されたり中止されたりした活動があった。(活動指標 No131 成果指標 No75.79)感染収束後の開催に備えた準備を進めておいていただきたい。

今後も学校・地域・保護者・行政が協働して、かしこくやさしくすこやかな佐々っ子を育てていただきたい。

令和2年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

平成29年4月より第2期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしましたが、評価については平成28年度実績から行い、その改善に資することとしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

なお、成果指標「No.13」及び「No.14」については、調査の裏付けとなる長崎県教育委員会の学校運営調査の表現が変わったため、「評価の内容」の記載を変更しました。

表現が変わっただけで、内容は同じであることから、「現状値」「目標値」等の変更は行いませんでした。

変更箇所については、一覧表中に青で塗りつぶして表示しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	119	100.0%	100.0%
B	0	0	0.0%	
C	0	0	0.0%	
D	0	0	0.0%	
計	96	119	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	66	90.4%	94.5%
B	3	4.1%	
C	0	0.0%	
D	4	5.5%	
計	73	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	A	A
3 健やかな体を育成する教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 教育環境整備の推進	A	A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
7 生涯学習・社会教育の推進	A	A
8 生涯スポーツの推進	A	A
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	B
10 新たな地域文化創造の推進	A	B

令和2年度 教育委員会自己点検・評価

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値					
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査	
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 基礎的・基本的な学習の充実	1	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	1	3校研における公開授業の開催数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査	3.0	
		2	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	2	「ICT機器を使った授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒の割合	69%	90%以上	85.2	94.7%	A	学校運営調査	93.4	
		3	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	3	自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合 (※新型コロナウイルス感染症の影響により全国学力調査を実施できなかったためデータ無し。)	58%	70%	-	-	-	全国学力調査	69.7	
		4	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A										
		5	学校訪問による指導	4.0	A	経年経過研修の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		6	3校共同研究の支援・指導	3.7	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	3.7	A										
		7	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		8	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		9	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A										
		10	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A										
		11	サポート・ティーチャー配置への支援	-	-	サポート・ティーチャーの効果的な活用 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	学校等	-	-										
		12	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A										
		13	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A										
		14				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A										
		15				授業規律の徹底	学校等	4.0	A										
		16				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		② 知識・技能の習得と活用する力を育む取組の推進	17	横断的・総合的な学習への支援	4.0	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	4.0	A	4	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
	18		体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動の効果的な実施	学校等	3.7	A	5	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査	100.0	
	19		佐々町学力調査実施・活用への支援	3.7	A	佐々町学力調査結果向上への取組	学校等	3.7	A	6	佐々町学力調査の到達度 (※新型コロナウイルス感染症の影響で授業時数確保のため実施しなかった。実施した小学校の結果で評価。)	1.00	1.00以上	1.01	100.5%	A	町学力調査	0.96	
	20		全国学力調査実施・活用への支援	4.0	A	全国学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	7	全国学力調査の到達度 (※新型コロナウイルス感染症の影響により全国一斉の実施はなされなかったため、小学校のみの自校採点で実施。その結果で評価。)	0.99	1.00以上	1.01	101.0%	A	全国学力調査	0.97	
		③ 学校間の連携の推進	21	3校共同研究の支援・指導	3.7	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	3.7	A	8	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査	3.0
	22		「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	9	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
	23					中学校体験入学の効果的な実施 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	学校等	-	-	10	両小学校交流の実施率 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	100%	100%を維持	-	-	-	実態調査	100.0	
	24					両小学校交流機会の設定	学校等	4.0	A										
		④ 情報教育の推進	25	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	11	ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合	68%	100%	63.3	63.3%	C	学校運営調査	77.2
	26		ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	12	授業中にICTを活用して授業ができる教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
	27					タブレットPCの効果的な活用	学校等	3.7	A										
	28					情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A										
	29					情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A										

大項目	中項目	活動指標						成果指標							該年度値			
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該年度値		達成度	評価	調査
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	⑤ 外国語教育・国際理解教育の推進	30	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	13	簡単な挨拶や自己紹介などを英語ですることができる小学生の割合	94%	95%	87.5	92.1%	A	学校運営調査	90.5
		31	外国語活動の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	外国語活動の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	14	知っている英語を使って、日常生活や好きなことなどについて、簡単な英語で話すことができる中学生の割合	51%	70%	82.4	117.7%	A	学校運営調査	77.1
		32	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	4.0	A	15	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	43%	70%	55.6	79.4%	B	実態調査	12.6
	⑥ キャリア教育の推進	33	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の提供	学校等	4.0	A	16	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	93%	100%	94.5	94.5%	A	学校運営調査	92.0
		34				勤労・生産的な学習の実施	学校等	4.0	A	17	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	64%	100%	91.1	91.1%	A	学校運営調査	74.0
		35				職業に関連する学習の実施	学校等	4.0	A									
		36				職場見学を含む学習の実施(小学校)	学校等	4.0	A									
		37				職場体験の実施(中学校) (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	学校等	-	-									
	⑦ 幼児教育の推進	38	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	幼稚園			18	小学校体験入学の実施率 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	100%	100%を維持				実態調査	
		39	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	幼稚園											
		40	幼稚園就園奨励費事務の適切な実施	4.0	A	小学校体験入学の効果的な実施	学校等											
	⑧ 特別支援教育の推進	41	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	19	個別的教育支援計画の作成率	70%	100%	100.0	100.0%	A	校長特別調査	100.0
		42	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	20	特別支援教育を理解している教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		43	教育支援委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談・指導体制の確立	学校等	4.0	A									
		44	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A									
		45	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催	学校等	4.0	A									
		46	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A									
		47				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A									
48					個別的教育支援計画の作成	学校等	4.0	A										

1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 96.1%	総合評価: A
所見							
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		一人一人の可能性を伸ばす教育の推進については、教育支援員及びICT支援員等を適切に活用し、校内研究による授業改善を軸に確実に成果が上がっている。また従来のICTの効果的な活用に加え、GIGAスクール構想に基づく、1人1端末のタブレットをどのように授業改善に取り入れていくかの研究を進めている。昨年度末の町学力調査の結果においても、年々確実に向上し、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後もさらにタブレットを活用し、学力向上を図り、誰一人取り残さない教育の実現を目指す。また、心の相談員、SC、SSW等も効果的に活用し、特別支援教育の指導体制を強固なものにし、特別に支援が必要な子どももそうでない子どもも学習に挑む姿に安定感のある学校づくりを目指す。					
所見(口石小)		・本校では、校内研究の柱として算数科授業の質の向上と自己肯定感の向上を取組む柱としている。学力調査において県平均を上回る好結果は本校児童の学力向上を証明する材料の一つと言える。課題となっていた自己肯定感の高まりについても、内的対話や必要感などを軸に授業改善に取り組んでいる。今後も長崎県の授業改善リーフレット等を活用しながら主体的・対話的で深い学びのある授業実践を推進していく。・特別支援教育に関しては、個に応じた合理的配慮について職員で共有するためにスクールカウンセラーによる講義を実施した。・両小学校の交流については、コロナ感染拡大防止の観点で児童同士の交流は中止としたものの、職員の交流に関しては、授業研究に参加するなど継続した。・小学校体験入学(項目18)は、コロナ感染拡大防止のため中止にしたため、対応策として動画DVDを作成して各施設に届けた。					
所見(佐々中)		生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるために、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を図りながら、基礎学力の定着とともに、生徒一人一人の能力を引き出し、最大限に伸ばすことや自己実現への支援体制の確立に努めた。また、教職員の資質向上のために県教育委員会学力向上班の援助もいただき授業改善に取り組んだ。学力向上の即効性はないが教職員の意識の改善につながっている。また、新型コロナウイルス感染症対策のためたくさんの行事が中止または縮小開催となった。特に職場体験、修学旅行が中止となり、生徒のキャリア教育及び進路学習について様々な切り口から取り組むこととした。					
所見(委員会)		新型コロナウイルス感染症による、臨時休業等によって授業時数の確保が大きな問題であった。全国一斉休業による令和元年度の3月4日から3月24日の13日(72時間)の減に対しては、学校行事の精選で約7日(約40時間)、週時間割の工夫で約6日(約36時間)で対応した。4月22日から5月17日14日(84時間)の減に対しては、夏期休業日の短縮で13日(78時間)、土曜授業の実施で2日(12時間)で対応し、教育課程は、ほぼ完全に実施できた。全国学力調査は、新型コロナウイルス感染症のために小学校のみが実施し参考値ではあるが、全国平均を上回った。中学校においては、「県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合が、昨年度の12.6%から55.6%と改善の兆しが見えた。」「ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合」の低下については、原因を明らかにして対応したい。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値					
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査	
2 豊かな 人間性・ 社会性 を育む 教育の 推進	① ふるさと教育の推進	49	佐々町郷土資料の活用推進	4.0	A	佐々町を学習材とした授業の実施(小3・4年の社会)	学校等	4.0	A	21	我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合	77%	100%	90.8	90.8%	A	学校運営調査	88.0	
										22	「佐々町博士」の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
		50	「佐々町博士」の改訂・配布	4.0	A	「佐々町博士」の有効な活用	学校等	4.0	A										
		51				青少年劇場への参加と成果の活用 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	学校等	-	-										
	② 道徳教育の推進	52	道徳に関する研修会への参加促進	4.0	A	道徳に関する研修会への参加	学校等	4.0	A	23	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
		53	道徳教科書採択への適切な対応	4.0	A	道徳教科書採択への適切な対応	学校等	4.0	A	24	周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合	90%	100%	96.7	96.7%	A	学校運営調査	88.4	
		54	佐々っ子3ヶ条の啓発	4.0	A	佐々っ子3ヶ条の啓発	学校等	4.0	A										
		55				道徳の授業の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		56				「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開	学校等	4.0	A										
		57				豊かな情操、規範意識、道徳心を育むための日常的な取組	学校等	4.0	A										
	③ 人権教育の推進	58	人権教育推進のための支援・指導	4.0	A	人権学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	25	周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合	90%	100%	96.7	96.7%	A	学校運営調査	88.4	
		59	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	4.0	A	人権集会の実施	学校等	4.0	A	26	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
		60				「人権作文」への応募(中学校)	学校等	4.0	A										
		61				いじめ防止基本方針に従った指導・対応	学校等	4.0	A										
		62				いじめへの適切な対応と早期の解消	学校等	4.0	A										
	④ 平和教育の推進	63	平和教育推進のための支援・指導	4.0	A	平和学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	27	戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合	99%	100%	99.3	99.3%	A	学校運営調査	98.0	
		64				平和集会(8月9日)の実施	学校等	4.0	A										
	⑤ 環境教育の推進	65	環境教育推進のための支援・指導	4.0	A	環境学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	28	環境問題に関心があり、何らかの取組を実践している児童生徒の割合	65%	80%	80.7	100.9%	A	学校運営調査	84.5	
		66				自然とふれあう活動の実施	学校等	4.0	A										
	⑥ 体験活動の推進	67	体験活動推進のための支援・指導	3.7	A	体験活動の充実	学校等	3.7	A	29	佐々町の地域資源を活用した体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
		68				町の地域資源を活用した体験活動の推進	学校等	3.7	A										
		69				特別活動の充実	学校等	4.0	A										
	⑦ 読書活動の推進	70	読書活動推進のための支援・指導	4.0	A	「朝読書」の実施	学校等	4.0	A	30	学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数	小:75冊	小:80冊	97.5	121.9%	A	学校運営調査	95	
		71				「読み聞かせ」の実施(小学校)	学校等	3.5	A			中:14冊	中:20冊	7.1	35.5%	D	学校運営調査	4	
		72				読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A										
⑧ 伝統文化にふれる機会の充実	73	青少年劇場の開催	4.0	A	青少年劇場への参加と成果の活用 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	学校等	-	-	31	舞台芸術を生で鑑賞したことがある生徒の割合 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	100%	100%を維持	-	-	-	学校運営調査	100.0		
	74	伝統文化にふれる機会の充実のための支援・指導	2.7	C	文化芸術の鑑賞機会の充実(教科等を含む)	学校等	2.7	C	32	文化や芸術に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0		
	75				文化芸術に関わる体験活動の実施(教科等を含む)	学校等	3.7	A											

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 3.9	総合評価: A	達成度平均: 3.9	総合評価: A	評価平均: 95.1%	総合評価: A
所見	2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進 学級経営を軸とした人間関係の構築と活性化を図るために、QUTの結果を詳細に分析し、生かしている。これまで確固たる実践力を高めるために体験活動の充実を図ってきたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大措置のため例年のように実施することができなかった。できることをできる方法で進め道徳教育、人権教育、平和教育等、教室で学習した内容が、日常生活等において実践につながるよう進めてきた。また、図書館教育については、これまでの実践が評価され、文部科学大臣賞を受けたが、今後も子どもたちが読書活動に取り組もうとする意欲が高められるように活動を工夫進めていきたい。					
所見(佐々小)	・学校図書館の一人当たりの貸出冊数は目標値を上回ることができた。・コロナの影響を大きく受けたのが体験学習や交流学習である。中止をやむなくされたものも多いが、それでもできることを模索して取り組む努力を重ねている。運動会は保護者協力のもと参加人数の制限や種目の取捨選択で午前中開催という形で実施することができた。					
所見(佐々中)	豊かな人間性、社会性を育む教育の推進を図るため、長崎っ子の心を見つめる教育週間の取組、道徳の授業、平和集会、人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を実施した。いじめ問題については、早期発見・早期対応を徹底し、いじめを許さない態度・雰囲気醸成に取り組んだ。現在、解消率は100パーセントとなっているが、今後も定期的なアンケートの実施、教師がアンテナを高く張り対応することを徹底する。また、今後求められる読解力をつけるためにも読書活動の充実に取り組んできた。貸し出し冊数も徐々に向上しているため、今後も図書司書と連携を図りながら対応していきたい。					
所見(委員会)	「我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合」「周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合」「戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合」が向上した。特に、「周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合」の向上は児童生徒の心情的な成長として今後とも高い評価を維持したい。佐々町を教材とした学習は定着した。「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」は昨年度からは改善した者の中学校においては低調である。さらなる対策が必要である。					

大項目	中項目	活動指標					成果指標							昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
3 健やかな体を育成する教育の推進	① 体力向上の取組の推進	76	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	全国体力・運動能力調査の到達度(全国比) (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)	1.010	1.000	-	-	-	体力運動能力調査	0.957
		77	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合 (※新型コロナウイルス感染症の影響により全国一斉の体力運動能力調査はなされなかったため小学校のみが独自調査を行った。その結果で評価。)	84%	85%以上	89.1	104.8%	A	体力運動能力調査	88.0
		78				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合 (※新型コロナウイルス感染症の影響により全国一斉の体力運動能力調査はなされなかったため小学校のみが独自調査を行った。その結果で評価。)	89%	90%以上	92.6	102.9%	A	体力運動能力調査	90.1
		79				スポーツテスト結果の有効活用 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により全国一斉の体力運動能力調査が実施できなかった。)	学校等	-	-									
	② 望ましい生活習慣を身につける取組の推進	80	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	36	就寝時刻(中学生12時より早い時刻、小学生10時より早い時刻)	小:72%	80%	70.6	88.3%	A	学校運営調査	73.5
		81	佐々子応援団活動の推進	4.0	A	「あいさつ」指導の徹底	学校等	4.0	A			中:77%		81.3	101.6%	A		81.2
		82				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	起床時刻(6時30分より早い時刻)	75%	80%	70.3	87.8%	A	学校運営調査	67.5
	③ 食育の推進	83	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数	データなし	50回	5.0	10.0%	D	実態調査	104.0
		84	給食の充実に関する支援	1.3	D	栄養教諭を活用した食育指導の実施	学校等	1.3	D	39	朝ご飯の摂取率	99%	100%	94.4	94.4%	A	学校運営調査	97.0
		85				給食指導の充実	学校等	4.0	A									
86					個別的な健康相談の実施	学校等	4.0	A										

評価	項総合評価(活動指標)		項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 3.6	総合評価: A	達成度平均: 3.7	総合評価: A	評価平均: 84.3%	総合評価: A
所見	3 健やかな体を育成する教育の推進 体力向上の課題の改善を図るために、日課の中に体力向上の時間を設定した。運営を体育委員会が行うことで、主体的な体力向上を目指したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の措置から活動に制約が生まれ、例年のような活動を進めることはできなかった。結果的に新体力テストも実施できなかったため、子どもたちの体力・運動能力において改善が見られたかは分からない。ただ、感染症対策を取りながらこれまで以上に体育の時間の充実を図るための手立てが、学年に応じて講じられている。体育の学習内容が学校行事や体験活動とのつながるように意図的に設定し、年間を通じた体力向上に努めた。また、保健指導については、これまでの流れプラス、メディア教育を取り入れ、児童及び保護者にも指導方針を浸透させている。現在の教育活動の継続を基本とし、さらに工夫改善を図っていきたい。					
所見(佐々小)	・新体力テストについては、コロナ感染拡大防止の観点で実施していない。(項目33・34・35)体力向上に向けて体力アクションプランに取り組んだ。・コロナの影響で栄養教諭を招いての食育指導は実施できなかった。学級活動や給食集会など、出来る範囲で食育指導に取り組むように努めた。					
所見(口石小)	・就寝時刻・起床時刻など生活リズムは中学年の時期から乱れる傾向があるので、軌道修正が容易な乱れ始めの段階で、家庭との連携も強めて指導を進める必要がある。					
所見(佐々中)	男女共修による授業や多くの競技に親しませる機会を設定した。また、スポーツテストの個人分析は、自分の体力等の特性を知り、改善する指導に生かしたが、県平均以下が非常に多い。新型コロナウイルス感染症対策のため集団での取組に制限がかかったことや、生活習慣との因果関係がありそうである。食育については、栄養教諭による食育指導や「食育だより」の発行等で保護者への啓発も含め充実した取組ができた。					
所見(委員会)	新型コロナウイルス感染症のために体育の授業における「水泳」を中止したり、中学校の部活動を制限したりと、児童生徒の運動機会が減少した。そのような中で各学校では縄跳び等の個別的にできる体力向上に工夫しながら取り組んだ。全国体力・運動能力検査は各学校の判断で実施できた項目が違ったため、全国的な統計処理はなされず本町児童生徒の到達度は分からなかった。また、栄養教諭による給食時の「食に関する指導」を中止したため、「食」に関する栄養教諭による指導回数が目標値を大きく下回った。「食育だより」の発行でおぎなったが、今後はICTの活用を検討して行きたい。就寝・起床、朝食の摂取率は全体的には良好であるが、個別的に課題を持つ児童生徒もおり、家庭と連携した個別指導が必要である。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標							昨年度値			
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値		達成度	評価	調査
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	87	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		88	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.06	県平均以下(1.68)	1.7	98.8%	A	実態調査	1.2
		89	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合 (※新型コロナウイルス感染症の影響により全国学力調査を実施できなかったためデータ無し。)	91.4%	95%	-	-	-	全国学力調査	93.6
		90	問題行動対応への適切な指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (※新型コロナウイルス感染症の影響により全国学力調査を実施できなかったためデータ無し。)	71.0%	80%	-	-	-	全国学力調査	83.1
		91	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1.0	100.0%	A	実態調査	1.0
		92	不登校対策委員会の開催	3.7	A	不登校対策の充実	学校等	3.7	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1.0	100.0%	A	実態調査	1.0
		93	SC、SSW、心の教室相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の相談員の配置	各校に配置	現状維持	1.3	100.0%	A	実態調査	1.3
	② 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	94	地域人材活用への支援	3.7	A	地域人材の活用	学校等	3.7	A	47	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		95	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	3.7	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	学校等	3.7	A	48	学校評価の公表	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		96				学校だより、学級だよりの発行	学校等	4.0	A	49	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	95.3	95.3%	A	学校運営調査	94.0
		97				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A									
	③ 教職員の指導力の向上	99	研修会受講の支援・指導	3.7	A	研修会への積極的な参加	学校等	3.7	A	50	町教委主催の各主任研修会の開催数	12回	12回以上	10.7	88.9%	A	実態調査	12.0
		100	各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用	学校等	4.0	A	51	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査	3.0
101		3校共同研究の支援・指導	3.7	A	3校共同研究の充実	学校等	3.7	A										

4 信頼される学校づくりの推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 3.9	総合評価: A	達成度平均: 3.9	総合評価: A	評価平均: 98.3%	総合評価: A
所見		学校運営協議会では、学校運営に関わる職員組織や学級担任以外の用務、主な教育活動の計画等、可能な限り情報提供をし、学校情報の公開を進め、意見等も取り入れながら学校運営に活用している。また感染防止対策を取りながら、学校運営委員のみならずにも授業を参観していただいたり図書ボランティアのみならず、学年ごとに読み聞かせを実施したりしていただいた。地域とのつながりについては、できることをできる方法で最大限に実施した。今後も感染症対策を取りながら、できる方法で学校教育の必要性と佐々子応援団の各組織や団体の活動が合致する活動を取り入れながら、相互に信頼関係を高めていきたい。					
所見(口石小)		いじめにつながる問題行動を見逃さないように児童の様子を全職員で見守り、観察や相談による早期発見に務めた。いじめが起きた場合は、担任一人ではなく複数の職員で解消に至るまでの確実な指導を心がけた。・特別な配慮を要する児童については、特別支援教育COを中心に、担任やSC、SSW、心の相談員が連携して組織的対応を進めた。町任用支援員による日々の授業における細やかな支援も、児童の合理的配慮における大きな役割を果たした。・職員の研修は、コロナ禍で外部への研修に参加することが思うようには出来なかった。ZOOM等によるリモート形式の研修会などが増えてきたので積極的に活用する。					
所見(佐々中)		信頼される学校づくりを推進するために、県教育委員会及び町教育委員会からの助言を受けながら教職員の資質・能力の向上を始め、問題行動に対する早期発見・即対応に努めてきた。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学年だより、学級だより、進路だより、保健だより等の時宜を得た発行に努めた。さらに3校共同研究により小中の連携を深め、児童生徒を9年間のスパンで見守ることができている。					
所見(委員会)		生徒指導については、全体的には良好であるが、個別に課題を持つ児童生徒がおり、関係機関等との連携を進めていきたい。いじめの解消率は100%と良好であるが、「見落とし」又は「見えない」いじめがないかを常に考えた指導を行っていく。不登校児童生徒の割合は、小学校では県平均以下であるが、中学校においては、県平均を若干上回った。QU検査の活用等の予兆の段階での対応の強化を行う必要がある。学校ボランティアの実人数は確保できたが、新型コロナウイルス感染症のためにサポートティーチャー等の地域と連携した活動は不十分であった。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
5 教育環境整備の推進	① 子どもの安全確保対策の推進	102	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	52	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		103	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	53	避難訓練の実施回数	小学校:3回 中学校:2回	現状を維持	小学校:3.5回 中学校:2回	110.0%	A	実態調査	小学校:3回 中学校:2回
		104	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A	54	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画	70
		105				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	55	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0

5 教育環境整備の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 102.5%	総合評価: A
所見	所見(佐々小)	各種生活事故等の発生時には、管理職を中心に危機管理マニュアルに沿って適切に対応し、保護者からも信頼を得られている。教育活動において、児童の生命や安全を第一とした取組を、管理職が随時確認している。また、事故発生時を想定し教職員の動きを指導しており、万全の体制で教育活動に取り組んでいる。さらに、今年度も年度当初に養護教諭を中心にアレルギー対応の研修を全員で行い、アナフィラキシーに備えて校内での職員の様子を確認し合った。					
所見(口石小)	所見(佐々中)	・防災・防犯に対しては、避難訓練を単なる訓練とせず、日々の生活や行動と関連づけた指導を繰り返して行ってきた。交通安全については、自転車の乗り方や横断歩道の歩行など頭での理解に終わらず、児童に徹底して身に付けさせるまで指導を重ねていく。・自然災害では、7月の大雨の際に、学校が避難場所となった。緊急時においても、冷静に対応できるように関係機関との連絡・連携を普段から行うようにする。					
所見(委員会)	所見(委員会)	毎月校内の危険箇所調査を行い、危険箇所の改善に努めている。町教委の指導の下、通学路安全点検を行った。併せて、校内でも全生徒に登下校の指導を行ったり、職員が登校指導や下校指導に回ったりした。自転車通学生徒に関しては、自転車点検や通学ルールについての講習会を開き安全指導を徹底し、自転車通学性のみを集会を実施し安全教育に努めた。避難訓練については、まずは、避難経路の確認、消火訓練、通報訓練、地震時などの避難訓練など現場で起こりうることを想定しながら実施した。今後は不審者対策による避難訓練も取り組みたい。					
		本年度は新型コロナウイルス感染症のために、保護者アンケート及び保護者を交えた危険箇所の抽出はできなかった、以前からの指摘箇所9箇所について「佐々町登下校安全プラン」に従って合同点検を行い対策を協議した。防犯カメラ設置の必要性が指摘されたが、早急な対応は難しく、見守りかつ活動の強化や警察官による防犯対策の強化と佐々町通学路安全マップに危険箇所を追加しホームページに掲載することにより啓発を行った。また、危機管理マニュアルに従って、地震、豪雨、アレルギー対応等についての訓練や研修の充実を指導した。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
6 学校・家庭・地域の連携の推進	① 地域教育力(放課後対策等)の充実	106	放課後子ども教室の開催	-	-					56	放課後子ども教室参加児童数 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により大部分が開催できなかった。)	60人	150人	17	11.3%	-	後期計画	850
		107	土曜学習の開催	4.0	A					57	土曜学習参加児童数	データなし	450人	359	79.8%	B	実態調査	548
		108	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A					58	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画	70
	② 地域教育を担う人材の育成	109	地域の担い手の発掘と育成への取組	4.0	A					59	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	94	94.0%	A	実態調査	94
		110	佐々子ゆめプランの啓発の支援	4.0	A	佐々子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A	60	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画	70
		111	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A													

6 学校・家庭・地域の連携の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 93.4%	総合評価: A
所見	所見(佐々小)	昨年度に引き続き校長が登校時校区内安全指導を毎朝実施している。例年、年度末にあいさつ運動に参加されている方々を学校にお招きし、感謝の集会実施していたが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の措置から実施することができなかった。しかしながら、あいさつ運動に参加されている方々への感謝の気持ちを途切れさせず、学校とのつながりが一段と深まり、子どもたちや参加者にとって、心温まるあいさつ運動となるように指導している。また、各地域の生活部の取組として、定期的な立哨当番があり、子どもたちを温かく見守る機運が高まっている。あいさつ運動参加者の人数は、まだまだ不十分であるが、量より質を高めたつながりを深めるあいさつ運動として定着させていきたい。					
所見(口石小)	所見(佐々中)	・コロナ禍ではあったが、地域の婦人会を中心に、感染予防対策の徹底の中で実施出来たものもあった。地域の方の御理解・御協力に感謝極まる。前年度実施した地域の方を大勢招いての感謝集会を開催することは出来なかったが、少しばかりであるが作ったお米や梅干しを婦人会などに贈ったり、感謝の手紙を書いたりして相互交流を模索した。今後も「子どものために」を軸に地域の教育力を生かした教育活動を推進して、地域と共に児童の健やかな成長を促していく。					
所見(委員会)	所見(委員会)	佐々子夢プランを各家庭に配布し、周知・徹底を図った。また、アンケートの実施を行いPTAの協力もいただきながら集計、分析を行っている。佐々子応援団の協力のもと、朝の立哨運動など子どもたちの見守り活動を熱心にしていただいた。また、PTAにも定期的に挨拶運動に参加していただくなど連携強化を図っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、PTAによる夏季休業中の校区内巡視は中止となった。また、2年生で実施している職場体験学習も中止とした。					
		「佐々子応援団」活動については、例年と変わりなく実施することができたが、放課後子ども教室や土曜学習はコロナの影響による中止などもあり参加者数が減少した。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標							昨年度値			
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値		達成度	評価	調査
7 生涯学習・社会教育の推進	① 生涯学習機会や内容の充実と支援	112	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	61	各種講座参加者数(年間)	481人(H26)	700人	512.0	73.1%	B	後期計画	573.0
		113	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	公民館	4.0	A	62	公民館活動参加者数	365人	450人	439.0	97.6%	A	後期計画	521.0
										63	講座参加者の満足度	データなし	70%以上	97.9	139.9%	A	後期計画	98.0
	② 読書機会の充実	114	図書館機能充実のための支援・指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	64	町民一人当たりの貸出冊数	13.3冊(H25)	現状以上	9.7	73.2%	B	後期計画	10.3
		115				「読み聞かせ」の実施	図書館	3.0	B	65	読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)	15世帯程度	現状以上	14.0	93.3%	A	後期計画	17.0
	③ 人権教育の推進	116	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	66	人権に関する講座の開催数	1回	1回以上	1	100.0%	A	実態調査	2
	④ 大学などと連携した学習機会の充実	117	県立大学と連携した学習機会の充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	4.0	A	67	県立大学と連携した講座や活動の実施数 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	4回	4回	-	-	-	実態調査	4

7 生涯学習・社会教育の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.8	総合評価: A	評価平均: 96.2%	総合評価: A
所見		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で様々な講座が開催中止になったが、成果達成はできたと思う。しかし、県立大学と連携した講座は、オンデマンド形式でのオンライン講座だけとなりインターネット環境を有しないと開催できない。今後環境整備を検討していただきたい。					
所見(公民館)		書籍については、定期的に蔵書整理を行い、選書については、計画どおりの選書ができた。読み聞かせの実施については、コロナ禍により、一部中止となったが、ほぼ実施できた。貸出冊数については、コロナ禍により、利用者が減となり、目標値を下回った。読み聞かせの参加世帯数については、コロナ禍により、参加者が減したため、目標値を下回った。					
所見(図書館)		コロナによる影響で講座の中止など例年とは異なる対応をしていく中で、できる範囲でイベントを行い成果もほぼ達成できた。しかし、公民館の所見にもあるとおり、県立大学との連携した講座では、施設のインターネット環境の課題などが出ており、講座開催を進めていくうえで今後の検討課題としたい。					
所見(委員会)							

大項目	中項目	活動指標						成果指標							昨年度値			
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値		達成度	評価	調査
8 生涯スポーツの推進	① 社会体育団体の活動の育成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	スポーツ団体	4.0	A	68	スポーツ少年団各部への登録者数及びクラブ数	254人	現状以上	228	89.8%	A	後期計画	236
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	スポーツ団体	4.0	A			14部	現状以上	13	92.9%	A		13
	② 子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントの推進	120	スポーツイベントの開催	-	-	スポーツイベントの開催 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により大部分のスポーツイベントを実施できなかった。)	スポーツ団体	-	-	69	スポーツイベントへの参加者数 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により大部分のスポーツイベントを実施できなかった。)	約2,000人	2000人	85	4.3%	-	後期計画	908
		121				スポーツイベントの運営 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により大部分のスポーツイベントを実施できなかった。)	スポーツ団体	-	-			70	体育協会各部への登録者数及びクラブ数	365人	現状以上	304	83.3%	A
	③ スポーツ指導者の育成	122	スポーツ指導者の育成・確保	4.0	A	スポーツ指導者の育成・確保	スポーツ団体	4.0	A			16部	現状以上	13	81.3%	A	後期計画	13
	④ 体育施設の有効活用	123	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	スポーツ団体	4.0	A	71	社会体育施設の利用者数	117,000人	現状を維持	98,410	84.1%	A	実態調査	117,428
		124	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A					72	維持管理、運営手法の検討	未検討	改善	個別計画策定	100.0%	A		検討実施

8 生涯スポーツの推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 88.5%	総合評価: A
所見		スポーツ少年団、体育協会ともに目標値を下回っている。今後は周知活動により増加を図っていく。					
所見(スポーツ関係団体)		新型コロナウイルス感染症の影響により、ジョギングフェスティバルをはじめ、多くのイベントが中止となった。「社会体育施設の利用者数」についても、活動自粛等により数値が減少している。スポーツ少年団、体育協会への登録者数は、目標値は下回っており、登録者増加に向けた取組が課題である。					
所見(委員会)							

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 自主文化事業の開催	125	自主文化事業の開催	-	-					73	文化にかかわる発表会への参加者数 (※今回は新型コロナウイルス感染症の影響により発表会を実施できなかった。)	2,700人	3,000人	0	0.0%	-	実態調査	2,486
	② 学校教育における郷土教育の推進	126	「佐々町博士」の編集・改訂	4.0	A	「佐々町博士」の活用	学校等	4.0	A	74	「佐々町博士」(歴史分野)の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
	③ 社会教育講座と公民館講座との連携	127	郷土史学習の推進	3.0	B	郷土史学習の実施	公民館	3.0	B	75	社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数	5回	現状以上	3	60.0%	C	実態調査	4
	④ 文化遺産・歴史遺産の保存と活用	128	文化財の適切な保存・保護	4.0	A					76	旧郷土資料館収蔵物の適切な保存	価値評価実施	適切な保存	一部整理	100.0%	A		一部整理
		129	文化遺産・歴史遺産についての広報	4.0	A					77	町指定文化財数	11件	13件	12	92.3%	A	後期計画	11
										78	佐々歴史リーフレットの改訂	-	完成・配布	未実施	0.0%	D		未実施

9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
	所見	達成度平均: 3.8 総合評価: A	達成度平均: 3.5 総合評価: A	評価平均: 70.5% 総合評価: B
	所見(学校)	(佐々小)佐々町博士は、子どもたちにとって、分かりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、子どもの興味・関心を高める場面においては、有効である。「佐々町博士」を窓口、郷土教育をさらに広げ、郷土を愛する佐々の子どもたちを育成していきたい。(口石小)佐々町博士は、子どもたちにとって、分かりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、子どもの興味・関心を高める場面においては、有効である。「佐々町博士」を窓口、郷土教育をさらに広げ、郷土を愛する佐々の子どもたちを育成していきたい。(公民館)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で4回中1回開催を中止した。しかし、1回あたりの受講者数は35名と多い。このことからわかるように郷土史への住民の関心度は高い。今後も魅力ある郷土史を学ぶ講座を企画したい。(委員会)コロナの影響により、町民文化祭や自主文化事業を中止にしたため、目標値を達成できなかった。		

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
10 新たな地域文化創造の推進	① 町民主体の文化芸術活動への支援	130	芸術・文化活動への支援	4.0	A					79	文化にかかわる発表会への参加者数 (※今回は新型コロナウイルスの影響により発表会を実施できなかった。)	2,700人	3,000人	0	0.0%	-	実態調査	2,486
	② 子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供	131	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	2.7	C	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	2.7	C	80	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数	2回	2回以上	2	100.0%	A	実態調査	2
	③ 施設の有効利用と管理運営	132	施設利用の促進	4.0	A					81	文化会館年間利用者数 (※今回は新型コロナウイルスの影響により利用者が大幅に減少した。)	29,500人	現状以上	10,867	36.8%	D	後期計画	32,807
		133	施設の適切な維持管理、運営方法の検討	4.0	A					82	維持管理、運営方法の検討	未検討	改善	個別施設計画策定	100.0%	A	実態調査	未検討
	④ 地域交流センターの利用促進	134	地域交流センターの利用促進	4.0	A					83	地域交流センターの利用者数 (※今回は新型コロナウイルスの影響により利用者が大幅に減少した。)	データなし	35,000人	16,637	47.5%	D	総合戦略	19,008

10 新たな地域文化創造の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)	
	所見	達成度平均: 3.7 総合評価: A	達成度平均: 2.7 総合評価: C	評価平均: 71.1% 総合評価: B	
	所見(学校)	(佐々小)昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の措置から、全校音楽を実施することはできず、これまで培われてきた合唱に対する子どもたちの意識はさらに高めることができなかった。また、外部から各種須団体を招いての文化芸術交流も実施できなかった。今後は、感染症対策を万全に取りながら、できることをできる方法で進め、多様な芸術・文化と接する機会を設け、操教育の充実を図っていきたい。(口石小)コロナ禍であり、学習公開日や運動会で招いていた、中学校や高校の吹奏楽部の音楽を聞くことは出来なかった。子ども夢劇場も同様で、芸術・文化にふれあう機会は制限された。校内での夏休み作品展や、運動会での太鼓の発表などで児童相互の鑑賞の機会を設けた。(佐々中)新型コロナウイルス感染症防止対策のため、町から、子どもたちが実際の芸術に触れあう貴重な機会としていただいた青少年劇場や町民文化祭などが中止となった。しかし、学校での文化発表会などを通して音楽や美術など文化的な学習は計画的に実施することができた。			
	所見(委員会)	コロナの影響により、ほとんどのイベントを中止にした。また、活動自粛により施設利用者数も減少している。			

令和2年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項目	評価	所見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	佐々町教育振興計画の一部改正、佐々町立学校におけるハラスメントの防止等に関する要綱の一部改正、佐々町町内会公民館建築費助成金交付規則の一部改正、教育機関における情報セキュリティポリシーの制定を行った。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。		該当事案はなかった。
3	法令に基く認可に関すること。		該当事案はなかった。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。		土地(佐々町本田原免230番地 旧幼稚園・公民館別館跡地 2,707.96㎡)を教育財産から普通財産に移管した。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	公立学校情報通信ネットワーク環境整備(校内LAN整備等)、公立学校情報機器整備(児童生徒1人1台のタブレット端末整備等)、学校保健特別対策事業(学校における新型コロナウイルス感染症予防対策経費)に係る予算について申し出た。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正を行った。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	県北地区教科書採択協議会において、教科用図書の採択に関する基本方針を定め、中学校教科書の採択を行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。		佐々町公共施設等総合管理計画に基づく社会教育施設個別計画を策定した。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	2月の臨時教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。		該当事案はなかった。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。		該当事案はなかった。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の研修計画は定めていないが、校長・教員については、毎月1回の定例研修会を開催している。その他、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、町雇用の特別支援教育関係の支援員も含めた研修会を実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。		該当事案はなかった。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。		該当事案はなかった。
16	文化財の指定に関すること。		該当事案はなかった。